

再生骨材・路盤材 需給地域差解消へ 鉄道コンテナ輸送試行

日合協 費用や流通体制課題

には顕著な地域差があり、輸送費支援制度の整備が喫緊の課題であることが明らかとなった。

アンケートでは、都市部の舗装工事や再開発で多くのアスガラやコンガラが発生し、再生骨材や再生路盤材が過剰となっている。一方、地方部などでは発生材が不足し再生資材の安定確保が困難となっている。工事量の減少により発生材が確保できず、他地域からの調達に依存している現状だ。再生路盤材も工事必要分を外部調達に頼っており不足傾向にある。需給ギャップの是正に向け中長距離輸送を前提とした費用支援や流通体制の整備が不可欠であることがわかった。

そこで日合協は、資源循環を実現するため県域を越えた移送を推進する。JR貨物のコンテナを利用し、都心部の再生骨材や再生路盤材を地方に輸送する取り組みを試行的に始める。砂

町アスコン東京合材工場の再生骨材を三共建設アスファルト合材工場（北九州市）に、千葉県のサンドテクノ市川合材センターの再生路盤材を前田道路富山合材工場に輸送する。鉄道コンテナは一般的な12ftコンテナを使用。鉄道コンテナによる輸送は日合協が費用を一部負担する。輸送費は現状、事業者負担となっており再生資材の広域利用を阻害しているという。「中長距離輸送にかかる費用が再生資材の流通を阻害しており、制度的後押しが強く求められている」（日合協）。

このほか、アンケートでは「特殊合材や土砂、ドレーン材などの混入が複数の地域で報告されており、発注者による排出材の分別指導や処理施設の選別体制強化が求められる」「再生合材の混合率に関する自治体独自の制限が再資源化を妨げている。全国的な基準の統一が必要である」との意見が出た。

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）は、再生骨材や再生路盤材を鉄道コンテナ貨物で輸送する取り組みを始める。会員に対してアスファルト殻（アスガラ）、コンクリート殻（コンガラ）、再生骨材、再生路盤材の需給状況を調査した結果、アスガラやコンガラの需給バランス

